

春のうた

草野 心平

冬眠 とうみん

かえるは冬のあいだは土の中にいて春になると

地上に出てきます。そのはじめての日のうた。

よろこびに ちがいがある。

ほっ ほっ

まぶしいな。
うれしいな。

感覚の目ざめ↓生きてゐることのようこび

みずは つるつる。

目で見るもの(視覚)

かぜは そよそよ。

感じるもの(触覚)

ケルルン クック。

ああいいにおいだ。

かぐもの(嗅覚)

ケルルン クック。

☆五感 ごかん

目・耳・舌・鼻・皮膚を

通して生じる五つの感覚

(視覚、聴覚、味覚、

嗅覚、触覚)

ほっ

いぬのふぐりがさいている。

近くのけしき

ほっ

おおきなくもがうごいてくる。

遠くのけしき

目で見るもの(視覚)

ケルルン クック。

生きてゐること

ケルルン クック。

感動の頂点 ちやうてん

雲の動きを表している。

※春になって、地上に出てきてひさしぶりに、自ぜんを五感で感じたうれしい

気持ちそつぞつを想像しながら、音読しよう。